

住友ベークライト株式会社 2023年3月期 第1四半期 決算説明会
主な質疑応答議事録

日時 : 2022年8月8日(月) 15時00分 ~ 16時00分

説明者 : 取締役専務執行役員 中村 隆

【全社的な事項に関する質問】

Q : 通期業績予想を変えていないが、第1四半期の結果に対する評価を教えてください。

A : 事業セグメント毎に凹凸はあるが、全体としてはまずまずのスタートと言える。通期業績予想においては、原料価格の影響が最初に出てきて、売価改定が追い付いていくという局面を第2四半期以降に想定していた。今後は原料価格と自動車・電子部品等の回復がポイントとなる。原料高騰に対しては、我々としては必要な転嫁をしっかりとやり遂げていく。

Q : 棚卸資産が増加している要因は何か？

A : 売上が増えているのでそれに対応して、製品、原料が増えている。また、連結ベースでは円安の影響があり、為替換算で増えている。在庫が滞留しているわけではない。

【半導体関連材料セグメントに関する質問】

Q : 第1四半期における半導体封止材をとりまく状況はどうであったか？

A : 生産面では、直前四半期においては原料調達等に問題があったと言及したが、この点についてはある程度解消しつつある。販売面では、上海ロックダウンの影響に加え、中国を中心として民生用途の需要が在庫調整により停滞局面に入りつつあり、自動車の回復も予定よりも遅れていることから、封止材の需要は落ち着いた状況となった。直前四半期比ではほぼ横ばいであるが、前年同期比では伸びている。

Q : 半導体封止材のアプリケーション別の構成比に変動はあるか？

A : 情報通信が50-55%、自動車が20-25%、家電が10%、産業機械他が10%という構成に変動はない。

Q : 顧客側で半導体封止材の在庫が滞留している心配はないか？

A : 封止材は温度管理が必要なので在庫が滞留しているとは考えにくい。ただし、半導体としての在庫がどこかで余剰に持たれていることはあるかもしれない。

【高機能プラスチックセグメントに関する質問】

Q：第1四半期は前年同期比で厳しい結果となったが、原料・売価の取引条件はプラスとなっているので、数量減が一番の問題ということか？

A：原料の高騰に対しては遅れ遅れではあるが売価改定につなげていっている。足元が一番の問題は、売上の半分を占める自動車用途だけではなく、その他の民生用等も含めて全体として需要、数量が落ちていることである。

Q：地域により問題点が異なると思うが、それぞれの拠点の課題は何か？また、利益が落ち込んでいるのはどの地域か？

A：全体として、自動車の生産台数が思う様に伸びていないこともあり、数量が落ち込んでいるのは共通しているが、特に中国が落ち込んでいる。米国は人件費が増えている。欧州も同様に人件費が増えており、地政学的な影響も受けている。利益面では、数量が大きく落ち込んでいる中国で影響が大きい。

【クオリティオブライフ関連製品に関する質問】

Q：当期において期待することは何か？

A：ヘルスケア関連製品は海外向けが増えている。また、売上面では不調であった産業機能性材料が少し回復する可能性があること、原料価格高騰に対して遅れていた売価改定が追い付いてくることもあり、全体として売上が伸び、事業利益も改善の方向に行くことを期待している。

以上